

子どもたちの成長をささえる 学校づくりへ力を合わせよう



11月16日、日本共産党神戸市会議員団が主催で「教育シンポジウム」を須磨区で開催し、約250人が参加しました。

今年10月に明らかになった神戸市立東須磨小学校での教員間いじめ暴力問題を中心に、日本共産党文教委員会責任者の藤森毅氏と小学生と中学生のお子さんを持つ尻池直美さん、元小学校教員の桑原敦文さんをお迎えし、保護者や教員・住民が立場の違いを越えて、学校内で子どもと教員の人権をど

のように守るかを考え語り合いました。フロアからは「今回のことはもはや犯罪だ。教員免許を取り上げるべきだ」「語り合い、学校や教育委員会に声をあげよう」などの言葉が飛び交い、長時間にわたり真剣な議論が交わされました。司会は市議団の山本じゅんじ議員が務めました。

パネリスト

尻池直美さん

子どもは、授業だけでなく、日常生活までもが評価の対象とされ、萎縮させられている。おかしいと思うことを自由に語り合うことが大事だと思います。



桑原敦文さん

多くの教員がストレスを抱える現場で、残念ながら、教員間のいじめやパワハラはある。教員は子どもと保護者に育てられるものです。手をつないでほしい。



味口としゆき市議

東須磨だけでなく、子どもへの人権侵害は深刻です。保護者や住民同士が語りあえる場をつくって、神戸の教育を変える力にしていきたいでしょう。



日本共産党文教委員会 藤森毅責任者の基調報告(要旨)

今回の事件は、長期にわたる暴力・暴言・強要などで人格を破壊し、自殺寸前まで追い詰める、極めて悪質なパワハラであるとともに、パワハラから職員を守る法的責任を負う管理職や教育委員会が逆に促進、容認してしまった深刻さがあります。

教員間のパワハラは神戸市だけでなく全国的に深刻化しています。その背景には、異常な長時間労働に加え、職員会議の形骸化、人事評価、学力テスト体制など国が「競争と管理」を強めた結果、教員の世界が本音や失敗が語れない競争的な上意下達の社会になっていることがあります。上からの命令を疑問なく実行する「即戦力」が求められ、自分の意見を言う先生が、職員室や子どもの前で非難されることもあります。

同時に、子どもへのパワハラと表裏一体です。先生の間で

パワハラが広がる中、子どもだけが大事にされることはあり得ません。体罰、ブラック校則、学校スタンダードなどで子どもの人権や個性が抑圧されていることは、個人の尊厳や多様性の時代に逆行しすぎています。

いっさいのパワハラがない学校をつくりましょう。「綱紀粛正」的な対応では現場が萎縮するだけです。何より子どもとの関係で、「体罰は論外だし『指導』を通すために、脅したり、恥ずかしい思いをさせたり、罰を与えたりしない」というような、パワハラを許さない基本的な姿勢を広げていくことが大切です。そのために教員、保護者・住民が、評価を気にせず自由に語り合える場が大切だと思います。日本共産党はパワハラを生み続ける教育政策をやめさせ、子どもの権利を大切に教育に変えるため全力をあげます。



学校・教育の立て直しへ



神戸 教員いじめ
暴力問題

日本共産党神戸市議員団は、須磨区選出の山本じゅんじ議員を先頭に、東須磨小学校の保護者から直接、悲痛な思いや要望をていねいに聞き取るなど独自調査を重ね、児童保護者へのケアを最優先に、真相究明と学校と教育の立て直しへ全力を挙げています。

子どもの人権を尊重しない 環境にメスを

教員間いじめ・パワハラ以外にも、一人の加害教員による児童への体罰や、前々校長が「(大阪のように)クラスも学校も競い合わせねばならない」などと競争教育の激化を当然視する発言とともに保護者に対しても暴言があったことも明らかになりました。子どもの人権を尊重しない環境が、教員の人権侵害を生み

出す一因になっています。また、教育委員会が、保護者説明会で「詳しいことを知りたければ情報開示請求を」と言い放ち詳しく伝えない隠蔽体質にくわえ、現校長から以前から教員間のトラブルについて報告があったにもかかわらず、校長任せにしていた実態も明らかになりました。

教員の二次被害防止を求めました。同時に、教育委員会と教育現場における、人権感覚の問題にメスを入れるべきと強調。垂水いじめ自死事案(※)の再調査委員会が『子どもの一命、権利、利益』を守るという理念や目的の共有が必要で、それは子どもの権利条約を教育現場に活かすことだと結論付けている点を指摘。

遺族の「娘の死が無駄にならないためにも、今後の学校運営に提言を活かしてもらいたい」とのコメントを読み上げ、教訓を全面的に活かすよう求めました。教育長は「子どもの権利条約を教育現場に活かすことが大事だということも十分念頭に置いて、今後の対策に活かしたい」と約束しました。

問題の解決は、子どもと保護者に寄りそい、学校の再生のために教育、医学、心理などの専門家の力を結集して、1年生の児童が卒業するまで

息の長い支援が重要です。日本共産党神戸市議員団は、徹底した真相解明へ全力を挙げていきます。

子どもの権利条約を活かした 学校づくりを

10月の文教子ども委員会で、味口としゆき議員と、朝

倉えつこ議員は、第一に、児童と保護者の心のケア、被害

(注)神戸市垂水区の市立中学校で、中3の女子生徒がいじめのため2016年10月に自死に追い込まれた事件。市教委幹部が、いじめを証言した生徒らの聞き取りメモを隠蔽(いんぺい)するよう前校長に指示していました。

シンポジウムに参加された方々の発言と感想をご紹介します

小学校の子どもがいる保護者です。子どもたちは「授業で質問すると先生に怒られる」「忘れ物が怖い」と萎縮しています。授業参観に行く度に、教室が静かになっていくことが不気味に感じた。PTAで問題にして聞き取りを始めると、教師が、子どもの意見や訴えに聞く耳を持たず、「お前なんていらん」「嘘をつくな」「お前は泥棒だ」などと暴力的な言葉を使い、児童を立たせ、さらし者にするなど想像を絶する事態で、聞くのも辛かった。

ゼロ・トレランス方式(不寛容で罰則と処分でしぼる方式)がまかり通っている。私の子どもは教師が信じられなくなり、音楽会の前日からパタリと学校に行けなくなり、転校もしたがいまも不登校です。今も苦しんでいる子どもたちがいると思うと本当に胸が苦しい。小学生まで自殺が増えている。この世の中をどうにかしないといけない。

- 将来教師を目指すものとして、気になって参加しました。憧れていた教師の苦しみを考えると心が折れそうです。一人一人がのびのび教育できる環境をつくるにはどうしたらいいのか、周りの子と話し合っ活動を広げたい。高校生の私にできることは何でしょうか？
- たくさんの方の違う意見が聞けてよかった。様々な意見をきちんと受け止め、質問に答えていく姿勢が良い。良い方向にもっていけるよう、みんなで話し合うことが大事です。
- 先生は忙しい中、トラブルの解決もしてくれる。先生のしんどさが子どもに影響するということを周りの人に伝えていこうと思います。
- 自分の子どもが来年から小学生になります。みんながみんな、人権を無視する様な発言をする先生ばかりではないと信じたいが、とても不安になりました。子どもには楽しく学校に通ってほしいです。

傍聴にお越しく下さい

山本じゅんじ議員、林まさひと議員が一般質問

日時 12月6日(金) 11時30分頃から
時間が前後する場合がございますので、余裕をもってお越しく下さい

場所 市議会本会議場
市役所1号館25階で傍聴手続きをお願いします